

カリキュラム区分		2カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	206	2年	後期	看護学科	必修	診療援助技術論 Medical Care Assistance	60	2
担当教員								
香川 里美		徳永 なみじ		北川 恵		谷本 淳子		森 敬子
野本 百合子								
関連するDPキーワード（看護学科）								
<input type="radio"/>	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
<input type="radio"/>	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
診療に伴う看護を提供する際の基本となる援助技術が理解できるとともに、主体的に学習課題に取り組むことにより、根拠に基づいた援助技術を実施することができる。								
到達目標（授業目標）								
1 援助技術を実施するための根拠となる知識について記述できる。								
2 援助技術の実施方法について、安全・安楽・自立の観点から説明できる。								
3 技術演習では、安全・安楽・自立に配慮しながら実施できる。								
4 技術演習では、グループメンバーと協力しながら、積極的に取り組むことができる。								
5 技術演習を振り返り、グループ課題と改善策を、演習後レポート内に記述できる。								
回 授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
1回	オリエンテーション：学習目標・展開方法（香川里美） 無菌操作：滅菌法、無菌操作（徳永なみじ）							
2回	無菌操作：＜演習＞滅菌物の取り扱い、無菌操作（徳永なみじ、担当教員全員）							
3回	創傷管理技術：創傷管理に関する基本的知識と技術、創傷の治癒過程、包帯法（徳永なみじ）							
4回	創傷管理技術：＜演習＞ドレッシング交換、包帯法（徳永なみじ、担当教員全員）							
5回	創傷管理技術：＜演習＞ドレッシング交換、包帯法（徳永なみじ、担当教員全員）							
6回	導尿の技術：導尿に関する基本的知識・技術（北川恵）							
7回	導尿の技術：＜演習＞導尿、超音波診断装置による膀胱容量の観察（北川恵、担当教員全員）							
8回	導尿の技術：＜演習＞導尿、超音波診断装置による膀胱容量の観察（北川恵、担当教員全員）							
9回	薬物療法：薬物療法に関する基本的知識（香川里美）							
10回	まとめ①無菌操作・導尿の技術の復習、実技の要点整理（担当者全員）							
11回	まとめ②無菌操作・導尿の技術の復習、実技の要点整理（担当者全員）							

12回	まとめ③無菌操作・導尿の技術の復習、実技の要点整理（担当者全員）									
13回	まとめ④要点整理（無菌操作、創傷管理、導尿、薬物療法）（徳永なみじ、北川恵、香川里美）									
14回	内用、外用薬の技術：内用、外用薬の基本的知識・技術（谷本淳子）									
15回	内用、外用薬の技術：内用、外用薬の基本的知識・技術（谷本淳子）									
16回	内用、外用薬の技術：＜演習＞内服薬・外用薬と薬（谷本淳子、担当教員全員）									
17回	診療に伴う安全管理技術：ハイリスク薬剤の管理、実習時の事故防止策（香川里美）									
18回	注射の技術：注射（皮内・筋肉・皮下）の基本的知識・技術（香川里美）									
19回	注射の技術：注射（皮内・筋肉・皮下）の基本的知識・技術（香川里美）									
20回	注射の技術：＜演習＞注射部位の確認、注射器具・注射製剤の取扱い、皮下注射法・筋肉注射法（モデル）（香川里美、担当者全員）									
21回	注射の技術：＜演習＞注射部位の確認、注射器具・注射製剤の取扱い、皮下注射法・筋肉注射法（モデル）（香川里美、担当者全員）									
22回	注射の技術：＜演習＞注射部位の確認、注射器具・注射製剤の取扱い、皮下注射法・筋肉注射法（モデル）（香川里美、担当者全員）									
23回	検査時の援助技術：検査時の看護に関する基本的知識・技術（森敬子）									
24回	検査時の援助技術：検査時の看護に関する基本的知識・技術（森敬子）									
25回	検査時の援助技術：＜演習＞静脈血採血法（モデル）（森敬子、担当者全員）									
26回	検査時の援助技術：＜演習＞静脈血採血法（モデル）（森敬子、担当者全員）									
27回	輸液療法の技術：静脈注射・輸液療法の基本的知識・技術（大野祐子）									
28回	輸液療法の技術：静脈注射・輸液療法の基本的知識・技術（大野祐子）									
29回	輸液療法の技術：＜演習＞点滴静脈内注射法（モデル）（大野祐子、担当者全員）									
30回	輸液療法の技術：＜演習＞点滴静脈内注射法（モデル）（大野祐子、担当者全員）									
成績評価方法及び基準										
筆記試験(60%)、実技試験(30%)、事前学習・演習後レポート内容(10%)で評価する。事前学習・演習後レポートは、期限までに提出できていない場合、評価対象外とする。トータル60点以上を合格とする。										
教科書	任和子他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院)									
参考図書等	適宜紹介する。									
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）										
根拠に基づく確実な技術の修得に向けて、基本的な知識や技術の事前学習、視聴覚教材の視聴、演習後レポート、技術練習、等の課題を毎回提示する。										
関連科目										
前科	161	薬と健康（共通）	148	生命活動と代謝	208	基礎看護学実習Ⅰ	204	生活援助技術論Ⅰ	205	生活援助技術論Ⅱ
後科	203	基本援助技術論	209	基礎看護学実習Ⅱ	211	成人急性期看護方法	212	成人慢性期看護方法		
実務家教員										
看護師（医療機関）	北川 恵	徳永 なみじ	香川 里美	谷本 淳子	森 敬子	大野 祐子				
	野本 百合子									
備考	根拠に即した知識と確実な技術習得のため、文献・視聴覚教材を活用し、担当教員と連携を取りながら、各単元で設定した学習課題に主体的に取り組むことを期待する。									